

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年 2月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694500069
法人名	医療法人 玉昌会
事業所名	「いこいの里」花いちもんめ
所在地	鹿児島県姶良市加治木町木田4888-4 (電話) 0995-62-2983
自己評価作成日	平成29年 12月 27日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

加治木温泉病院の敷地内に併設されており、龍門滝を望む自然豊かな環境にあります。当事業所は、法人内で一番最初の在宅サービス事業所として誕生しました。

四季の彩りを大切に、ご自宅で過ごしていただくような温かい家庭的な環境が特徴です。比較的介護度の高いご利用者様もご入居されており、ご利用者様に寄り添ったケアを職員一同で目指しております。慣れ親しんだ町や地域との交流を継続し、食事、排泄、入浴といった日常生活の活動において、心身の機能を考えながら、ご本人の能力を最大限に生かせるよう生活のサポートをさせていただきます。

季節に合わせてイベントを開催し、雄大な自然に囲まれたロケーションにて、いつでも自然を感じることができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○当ホームは、母体医療機関など関連施設が隣接した一角にあり、居室をリフォームした1ユニットのグループホームである。平均の要介護度は、「要介護4」認知症高齢者の日常生活自立度は、Ⅱa～M、車いす移動が6名程度と重度化している。また、最高齢103歳の方もおられ温かみのある家庭的な住環境で家族と職員が利用者に寄り添い穏やかな本人らしい暮らしの実現に向けて日々協力関係を築きながら共同生活が送れるよう支援している。

○自治会に加入し、回覧を通じて地域の情報収集をおこない、年1回の合同文化祭に向け作品作りに取り組み、家族と一緒に文化祭を見学に行くなど交流がある。また、定例の運営推進会議では、地域やホームの課題を話し合いお互いに協力関係を築くなど自治会長を中心に日常的に交流している。毎月、市のボランティアの方が来られ紙芝居や人形芝居を披露してくれるなど、利用者との交流活動も盛んである。職員は、地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成研修の講師派遣に協力し、関係を築くなど社会貢献している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	グループホームの在り方、当事業所の理念を念頭に、地域住民の協力を頂きながら生きがいのある生活を提供している。	職員は、毎朝法人の基本理念や方針を唱和するなどしているが、ホームの理念に対する意識は薄い。管理者は、ホームの理念を振り返る機会を設け職員と共通認識が持てるよう検討している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、回覧板等で情報の収集や発信を行っている。屋外散歩やボランティア受入れを通じて、近隣住民との挨拶、会話をされる関係が出来ている。	自治会と行事を通じて交流する機会を大切にしており、自治会長の関わりは深い。ボランティアの方のアイデアを採用し作品を出展、年1回合同文化祭に参加し家族とも一緒に参加している。管理者は、地域交流が今後の課題だと感じている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	民生委員および地域の方々との連携を取りながら、家族から相談を頂き、サポーターとして地域と交流している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	協議・報告議案に対して、出席者からの意見をいただき、改善策を話し合っている。また、作成した議事録を職員全員で共有し、サービスの向上に取り組んでいる。	会議は、家族が参加しやすいよう日程調整しており、なるべく多くの参加が見込めるよう取り組んでいる。昨年、家族向けに満足度調査を実施し、会議ではメンバー間で意見交換しサービスの質の向上に向け検討した。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて事業所の実情を伝えており、日頃より連携を図り協力関係を築くように努めている。また、生活保護受給者もあり、担当者との連携も図っている。	月1回、市のボランティアが紙芝居、人形芝居を披露するなどして利用者と交流している。また、地域包括支援センター主催の認知症サポーター養成研修では職員が、「介護劇」に参加するなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしない」を目標に掲げ、定期的に勉強会を開催している。また、身体拘束マニュアルを作成し全員で共有している。	転倒予防を目的とて離床センサーの活用があるが、身体拘束委員会や定例カンファレンスを開催し、夜間の使用を検討するなどしている。管理者は、地区管理者会議に参加し、身体拘束について報告・意見交換するなど意識が高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に行っている勉強会を通じて職員の意識の向上と情報の共有に取り組み、高齢者虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用いて研修会を開催し、学ぶ機会を設けている。現在、後見人制度を利用される利用者が入所されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に読み合わせを行い、家族の理解、承諾をを頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営上必要な事は早めに家族に発信して理解を頂いている。苦情相談窓口も設置しており、面会時に家族へ何か要望がないか確認している。	毎年、家族向けアンケート調査を実施し、今回はもっと家族と一緒に外出の機会を増やして欲しいとの要望を受け取り組んでいる。また、管理者や職員は、直接面談して意見や要望を聞き、出された意見をサービスの質の向上に繋げるなどしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングの中で意見交換を行い、スタッフが気軽に意見を出し合えるようにすることで、円滑な業務運営に取り組んでいる。	人事考課システムがあり、管理者と職員は、年2回面談している。法人間の移動はあるが、離職が少なく、ストレスチェックを実施したり、相互に意見が言える関係性を作り、働きやすい職場環境に力を入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場管理者は職員の意見を聞き勤務状況を把握して本部に報告、連絡を取りながら現場の環境作りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修が良質なケアの提供につながる事を理解し、内・外部研修への参加を促し、職員ミーティングの中で情報・知識を共有出来るように努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会への加入によって、情報の収集や研修会の参加を実施し情報の交換に活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人を尊重したうえで家族とも多くの情報交換を図っている。また、個別性を重視する為、本人の不安、悩み等を傾聴し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話等で常にコミュニケーションを取らせて頂き、家族の悩みや不安を聞くことが出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に何度か面談を行い本人や家族と話す機会を設け、関係作りに努めたうえで、家族や利用者のニーズに合わせたケア、サービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所前に本人・家族より以前の生活状況を聞き取り日頃の生活習慣を把握し、コミュニケーションを取りながら、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況や写真を新聞にして作成し、家族や行政へ配布している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の利用者がほとんどで、家族の面会が多い。法人行事の文化祭には地域住民の参加があり、知人・友人との交流が図られている。重度化して遠出等の外出は困難な状況ではあるが、電話の取次ぎなど関係継続の支援に努めている。	ご近所の方が来訪されたり、知人、友人の方との交流がある。職員は、今後、認知症カフェを活用し地域の方や場との関係継続に努めていく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生活歴、趣味等を把握して、職員が間に入り自発的な交流を持てるように配慮し、良好な関係が保たれるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は、本人の状態等を面会を通じて把握し、家族にも連絡をとり経過をフォローしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とコミュニケーションを図りながら思いを聞き取り、本人の希望や意向に沿った支援を行うよう心がけている。また、困難な場合はスタッフ間で話し合い、問題解決に努めている。	職員は、日々の暮らしぶりやケアを通じて本人の思いに触れ、希望や意向を確認している。また、家族からの情報を参考に本人の思いを共有し本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、これまでの生活歴、社会背景等を家族、本人より聞き取り把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神状態、身体状態を把握した上で、一人ひとりの残存機能に合わせた生活が出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、担当者会議は面会時や家族の都合に合わせて計画、主治医の意見や家族の思いを踏まえ定期的な見直しと必要時には随時見直しを行い、現状に見合った介護計画を作成している。	担当者会議では、本人が主体的に取り組めるよう目標を設定し話し合ったり、サービス内容を検討するなど個別性のある自立支援を見据えた介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を活用し、職員全体で利用者の状況を把握・共有して介護計画に沿ったケアの実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行事の実施や屋外への外出、また個別の要望にも出来る限り応じるなど、グループホームだからこそ出来る支援の充実に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域には高齢者介護施設や保育園が多くあり、また、自治会の高齢者との交流で笑顔が出る環境作りをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するそれぞれのかかりつけ医を支援している。主治医とは日々情報交換・報告を行い、家族にも説明して連携を密にとっている。緊急時の対応についても24時間医療連携体制が整っている。	重度化もあり、医療連携体制が整備され本人や家族の信頼を得ている。他科受診などは、家族の協力をもらいながら適切な医療が受けられるよう医療機関と連携を図り支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の健康状態について介護職員と看護職員が密に情報交換を行い、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に情報提供書により入院までこの経過・病歴・内服薬緊急連絡等の情報を作成し情報の共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合の対応や延命措置についての確認を行っている。身体状況に応じて段階的に主治医を交えて家族に説明し、今後の方向を話し合い、現在出来る最大の支援に取り組んでいる。	ほとんどの家族が看取りを希望しているが、今までに看取りの経験はなく協力医は夜間診療の体制がない。職員は、段階に応じて家族と相談しながら対応策を検討しているが、今後も利用者や家族の意向に沿えるよう看取りについても柔軟に対応する体制である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時マニュアルにより全職員へ周知を行うとともに、定期的に救命救急の勉強会へ参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防署指導のもと昼夜構想で同士基地内の協力医療機関と合同の防災訓練と事業所単独での非難訓練を行っている。建物の2階から4階部分が法人職員寮となっており、非常時の協力体制も整っている。</p>	<p>法人合同の避難訓練や単独の訓練を実施しているが、自治会が訓練に参加したいと申し出もあるなど地域との協力関係を築いている。また、入居時に職員寮入居者に協力依頼をしている。水、カップラーメンなどの備蓄がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が分かりやすく、また、個人の人格を尊重した言葉かけを行うよう努め、また、プライバシーへの配慮を全職員で徹底している。	利用者に対しては、さんづけで声かけするなど失礼のないよう言葉使いや態度に気を配っている。建物の構造上、居室の出入りにはプライバシーに十分に配慮し、職員全員に周知徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ほとんどの方が自己決定が難しい状況であるが、コミュニケーションを取ることでより利用者の気持ちに沿った自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体状況・精神状態を把握しながら、本人の希望に添った介護支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に訪問美容室の方により髪のカットをして頂き、行事参加時には化粧等を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・昼や職員が調理し、夕食は業者に委託している。嗜好調査を行い、本人の意向に沿った食事提供を行っている。食事前には嚥下体操をしたり音楽を流したりして、落ち着いた雰囲気です食事を楽しんで頂けるよう努めている。	料理を彩り良く盛りつけるなど視覚からも楽しませる工夫がなされている。また、能力に応じて下ごしらえを手伝われる方や家族と外食に行かれる方がある。食事介助も増えたが、見守りながら職員も一緒に食卓を囲むなど家庭的な雰囲気がある。夏場のおやつは、ゼリーで水分補給したり、クリスマスやおせちなど行事食を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の食事・水分摂取チェック表を作成し、個々の状態が分かるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨き・うがい・義歯洗浄を実施し、必要時は協力病院の歯科による定期的な受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄・水分チェック表を随時記録し、排泄パターンの把握に努めている。また、適宜トイレ誘導を行い、排泄感覚が継続するように、支援している。	朝は、お茶で陰部洗浄をする工夫があり、リハビリパンツを使用しトイレでの排泄を支援している。また、昼食後はバナナ、ヨーグルト、ミルクコーヒーなど取り入れ、便秘の予防と体操やマッサージなどの対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の有無の確認を行い食事内容、水分摂取量の確認と腹部マッサージ等を行っている。また、繊維性のある食材を取り入れ便秘予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週2回、夏場は週3回午前を基本に実施している。身体能力低下により、介助は2名で安全に考慮しながら支援している。必要に応じて足浴や清拭対応を行っている。	基本の入浴に加え、必要に応じて入浴ができるよう取り組んでおり、浴槽の出入りなどは職員が二人介助で実施するなど安全面にも配慮している。利用者の希望に応じて入浴方法を検討するなど利用者本位に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて、安眠や休息が出来る環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、処方内容を看護師が把握しスタッフへ情報を伝えている。内服の変更および臨時処方に対しては主治医の指示のもと確実にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや洗濯物たたみ等、利用者の残存機能に応じた共同生活での役割を担っていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩等に出掛けることによって、気分転換を図っている。家族様の面会時に家族と屋外を散策されることもある。家族の協力で、外出される利用者もいる。	日常は、近隣を職員や家族と散歩に出かけたりしているが、年間の行事計画を作成し、花見や初詣など外出レクを実施したり、合同文化祭に出かけるなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理については「預かり金」という形で管理しており、購入希望時には、事前に家族に了解をいただいたうえで使用している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>遠方の家族には、電話等で近況報告をしたり、直接本人と会話され安心されている。いつでも連絡が出来る環境作りに努めている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは全員のくつろぎの場として、広く季節ごとの花や季節行事の飾りを展示して季節感や生活感を取り入れて心地良く過ごして頂けるように工夫している。また、大きな窓から広々とした景色が見られ明るい。エアコンや加湿器で、空調整備を心がけている。</p>	<p>食堂兼リビングは、天井も高く広々としており、対面キッチンであり、テレビやソファが配置され思い思いに自由に過ごせる環境である。また、リビングから庭の木々や外の景色を見ることができて、共有スペースで季節を感じさせる装飾がなされ居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>テーブル席、ソファ、居室などで、それぞれ好きな所で過ごせるよう配慮を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所前に活用されていた家具や道具を使用して頂き、利用者が安心して過ごせるように環境整備に努めている。</p>	<p>居室は、電子ピアノや寝具など馴染みの物を持ち込み、それぞれ個性があり家族のこだわりも垣間見られ落ち着いた雰囲気がある。個人住宅をリフォーム使用のため、間取りなどに独特の雰囲気があるが、使い勝手が良いよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入所前、入所後の生活パターンの周知、掲示物等の活用、職員による見守りや声かけをすることにより、安心して生活を送ることができるように支援している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			○ たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない